

待ちに待った給食
ごはん 和風肉団子
マカロニサラダ
もやしのみそ汁

夢の車 ほぼ日刊 C-carat

第641号

神町中学校 夢色通信社
令和2年5月18日

不条理な苦痛



5/18(月)

おはようございます。

地区総体がなくなり、気持ちが安定しなかったり、先が見えない人もいるのではないのでしょうか。でも時間は止まってくれません。

こういう時こそみんなで助け合い、コロナに勝ちましょう。

Peace begins with a smile.

(平和は微笑みから始まります)

マザー・テレサ

今日も1日 がんばりましょう!

(生徒会・朝のホワイトボードより)

ようやく学校が再開しました。例年よりも1ヶ月遅い1学期のスタートです。長い休校の間、どんなことを考えていましたか? いつもは当たり前と思っていたことが、とても素晴らしいことだったことに気づいた人も多かったでしょうね。また、様々なニュースも流れました。地区中総体、県中総体の中止という衝撃的なニュースもありました。

大学時代にとっても印象に残っている先生がいます。その先生は毎回、「不条理な苦痛」について話をする先生でした。『人間は、みずからの責任を問われる必要のないことからさまざまな苦痛(「不条理な苦痛」)を負わされている。』というのです。例えば、どこの国に生まれるかは本人の意志ではない。でも、生まれた国によって戦争に巻き込まれたり、飢えで苦しむ人がでてくる。私たちだって、もしかするとそうになっていたかもしれないのです』と。

新型コロナウイルスの影響も、「不条理な苦痛」の1つかもしれません。でも、スポーツをしていると、こういうことはたくさんあります。サッカーで考えてみると、ミスは限りなく起きるし偶然にも大きく左右される。その日の天気、OWNゴール、レッドカードでの退場、ケガ、さらには審判の判定ミス(え、それPK?),そしてたまたまのロスタイムなどなど。練習して準備していても対応しきれないことが次々と起こります。想定していたことがひっくり返って心が折れる。それでも、笛が鳴るまで試合は続きます。スポーツは、まさに「不条理な苦痛」の連続なのかもしれません。私たちはそれを乗り越えるために、日々の練習を繰り返してきたではありませんか。

「不条理な苦痛」を乗り越えるためには、「共感」と「創造性」が必要だとその先生は話していました。『大変な思いをしている人のことを、自分事としてとらえ考えていくこと。そして、自ら考え「不条理な苦痛」を減らし苦痛と感じないように工夫していくことだ』と。

さて、今日のこの日を、みんなが心待ちにしていました。今日1番で登校し、学校が開くの

を心待ちにしていた大山諒成くん(2年)は「授業が楽しみです。」と話してくれました。体育会TVでマスクマンと対決し勝利を収めた内藤司さん(2年)は、自らがマスクマンとして生活していることを「だんだん息苦しく感じるようになりました。早くマスクをとって、友達とたくさんおしゃべりができるようになってほしい。」と話していました。

ちょっと難しい話になってしまいました。とにかくこの1学期、「笑顔とチャレンジ」でがんばっていきましょう!

